

JICA はチリ共和国とザンビア共和国で実施する北海道大学の2つの国際共同研究の採択を決定。

共に「知」を総合する科学技術協力～2022年度採択結果の発表






国際協力機構（JICA）は、今年度「地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）※1」として、北海道地域において、北海道大学の2つの事業を新たに採択しました。

この2つの事業は、どちらも地球規模の生物資源課題の解決に資する研究となっています。

チリ共和国の事業は、サステイナブル漁業の実現に寄与する研究プロジェクトです。チリのコキンボで漁獲される水産資源の加工品由来廃棄物を再生利用して、廃棄物のゼロ化を目指す取り組みです。

一方、ザンビア共和国での事業は、ザンビア共和国において、コメの新品種を開発・普及することにより、コメの増産とザンビア農家の農業所得の向上に寄与するものです。この研究プロジェクトは、同国のみならず、近年課題となっているアフリカでの将来的な食糧難への貢献が期待できるものであり、JICAが立ち上げている、アフリカ稲作振興のための共同体（Coalition for African Rice Development : CARD）※2にも寄与するものとなっています。

大学の先生へのご取材も調整可能です。是非取材をご検討ください。

日本側研究機関	相手国研究機関	事業名	SDGs 項目
北海道大学 研究代表者： 小野田 晃 教授	ラ・セレナ大学	サステイナブル漁業を実現する 高付加価値バイオ製品の再生利用 (生物資源領域)	  
北海道大学 研究代表者： 近藤 巧 教授	ザンビア農業・畜産省農業研究所	シチズン・サイエンス・アプローチによる即時的稲品種開発および普及体制の構築 (生物資源領域)	 

<※1「地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）」とは>

SATREPS は、外務省と文部科学省の支援のもと、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）と JICA が連携して実施し、日本の優れた科学技術と ODA との連携によって、開発途上国との科学技術協力、科学技術外

交を推進するプログラムです。環境、カーボンニュートラル、生物資源、防災および感染症といった地球規模課題の解決に向け、課題の解決につながる新たな知見・技術の獲得やイノベーションの創出、さらには開発途上国の自立的な研究開発能力の向上と課題解決に資する持続的活動体制の構築を図ることを目的としています。2022年度は、12件の事業が採択されました。2008年度の事業開始以降、採択事業数は計179件、実施国は53カ国となります。

2022年度「地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）」新規採択案件の決定について：https://www.jica.go.jp/press/2022/20220519_41.html

SATREPS 概要：<https://www.jica.go.jp/activities/schemes/science/summary/index.html>

<※2 アフリカ稲作振興のための共同体（Coalition for African Rice Development : CARD）とは>

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card.html>

【本件に関する問い合わせ先】
JICA ガバナンス・平和構築部 STI・DX室 中島由希子
TEL 03-5226-8105 e-mail : gpgsd@jica.go.jp